

「平成 29 年春の受勲・伝達祝賀会」における山添源二氏挨拶

この度は天皇陛下より栄えある旭日双光章授賞にあずかり、この身に余る名誉、中前総領事に厚く御礼申し上げます。振り返ってみますと、1965 年から 1967 年まで北海道大学文部省国費留学、帰国後 1968 年より当時のサンパウロ州農務局森林院に勤務、1972 年頃から後の日伯パルプ会社設立に関わった日本からの相次ぐ紙パルプ大手企業調査団訪問、1979 年から 2004 年までの 25 年間の継続的 JICA 協力プロジェクトを受けてそれに伴う 100 人以上の専門家の方々とのお付き合い、2000 年頃より JICA 帰国研修員同窓会 (ABJICA) の活動に参加、2012 年には鳥取県民間を中心とするサンパウロ鳥取友好の森立ち上げ、2010 年より NPO VERSTA 支援によるジュサラ椰子 AF プロジェクト実施に参加。この様に 50 年間殆ど中断なしに日本国、日本政府、日本国民の皆様方からのご支援、ご協力を受けてきました。この度の授賞もこのような皆様の暖かいご支援、ご協力があってこそこのことと確信しております。ここに改めてお礼申し上げます。また、2014 年には JICA から「功労賞」、同年に RESERVA DA BIOSFERA DA MATA ATLANTICA (大西洋岸林生物圏) よりムリキ賞授賞、さらに 2015 年には 日伯外交樹立 120 周年記念外務大臣記念表彰の授賞にあずかり、この度の栄えある旭日章を授賞することになりました。その都度、私の母親の言葉を思い出します。母親は典型的な移住者でした。小柄で日焼けしており、手はエンシャーダを永らく引いていたため、ごつごつしておりました。学校はせいぜい尋常小学校を出た程度でしたが、色々の良いことを教えてくれました。その一つ「普段が大事」とよく繰り返しておりました。「普段が大事」とは特定の場所で見栄を張るのでは無くて人生のその日その日を大切に生きるのが大事だと云うことです。多分無意識的にこの教えを従って、この 80 年近く、何かとプラスな点が積もり積もって、この度の叙章の対象になったのではないかと思っておる次第でございます。

今後とも健康が許す限り何かと社会のお役に立てばと思っております。とりわけ、日系社会活動のお手伝い、マタ・アトランチカの再生・保全に専念したい所存でございます。引き続き、ご支援、応援を期待する次第でございます。簡単ではありますが、私の挨拶とさせていただきます。

2017 年 6 月 14 日

山添源二